第３回特別支援学級運営充実推進委員会

令和６年度
「特別支援学級担任教員に求められる専門性チェックシート」を活用した事前・事後アンケート調査（自己評価）結果報告

特別支援学級　新担任者用

１．アンケートの目的

様々な研修や「特別支援学級ハンドブック改訂版」の活用を通して、特別支援学級担任の専門性向上が図られたかどうか自己評価を実施する。

２．アンケートの実施方法

１）対象：特別支援学級新担任者（約180名）

２）実施時期：5月と11月

３）実施方法：

特別支援学級ハンドブック・改訂版（p94、95）【特別支援学級担任教員に求められる専門チェックシート】を用い、事前・事後に自己評価（4段階）を実施する。

2.アンケートの実施方法

事前（第1回）

1）対象：特別支援学級新担任者
（約180名）
2）実施時期：5月
3）実施方法：
・研修内で実施方法を周知
・研修後、チェックシート全項目にFormsで回答
・未回答者に個別にメール送付
4）結果
・回答人数　149名

事後（第2回）

1）対象：第１回と同様
2）実施時期：11月
3）実施方法：
・メールにて回答を依頼
・Formsで回答
・未回答者に個別にメール送付
4）結果
・回答人数　142名

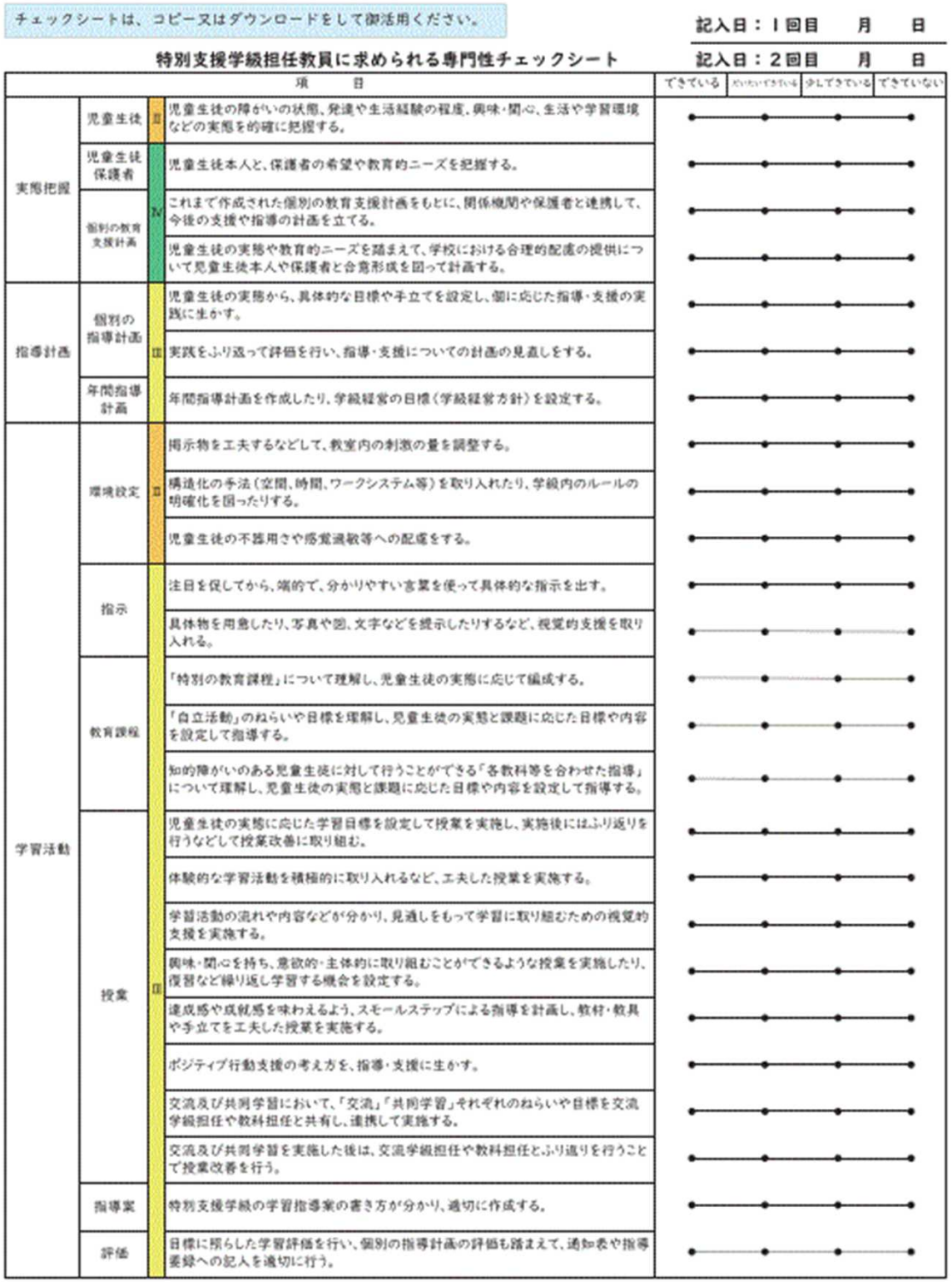
※第1回、第2回ともに回答した
対象者数：120名

2.アンケートの実施方法

専門性チェックシート
（全50項目）

※自己評価（４段階）

- できている
- だいたいできている
- 少しできている
- できていない



チェックシートは、コピーヌはダウンロードをして御活用ください。

記入日：１回目　月　日

記入日：２回目　月　日

特別支援学級担任教員に求められる専門性チェックシート

項目				できている	だいたいできている	少しできている	できていない
実態把握	児童生徒	Ⅱ	児童生徒の障がいの状態、発達や生活経験の程度、興味・関心、生活や学習環境などの実態を的確に把握する。				
	児童生徒保護者	Ⅳ	児童生徒本人と、保護者の希望や教育的ニーズを把握する。				
	個別の教育支援計画		これまで作成された個別の教育支援計画をもとに、関係機関や保護者と連携して、今後の支援や指導の計画を立てる。				
			児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえて、学校における合理的配慮の提供について児童生徒本人や保護者と合意形成を図って計画する。				
指導計画	個別の指導計画	Ⅲ	児童生徒の実態から、具体的な目標や手立てを設定し、個に応じた指導・支援の実践に生かす。				
			実践をふり返って評価を行い、指導・支援についての計画の見直しをする。				
	年間指導計画		年間指導計画を作成したり、学級経営の目標（学級経営方針）を設定する。				
学習活動	環境設定	Ⅱ	掲示物を工夫するなどして、教室内の刺激の量を調整する。				
			構造化の手法（空間、時間、ワークシステム等）を取り入れたり、学級内のルールの明確化を図ったりする。				
			児童生徒の不器用さや感覚過敏等への配慮をする。				
	指示	Ⅲ	注目を促してから、端的で、分かりやすい言葉を使って具体的な指示を出す。				
			具体物を用意したり、写真や図、文字などを提示したりするなど、視覚的支援を取り入れる。				
	教育課程		「特別の教育課程」について理解し、児童生徒の実態に応じて編成する。				
			「自立活動」のねらいや目標を理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導する。				
			知的障がいのある児童生徒に対して行うことができる「各教科等を合わせた指導」について理解し、児童生徒の実態と課題に応じた目標や内容を設定して指導する。				
	授業		児童生徒の実態に応じた学習目標を設定して授業を実施し、実施後にはふり返りを行うなどして授業改善に取り組む。				
			体験的な学習活動を積極的に取り入れるなど、工夫した授業を実施する。				
			学習活動の流れや内容などが分かり、見通しをもって学習に取り組むための視覚的支援を実施する。				
			興味・関心を持ち、意欲的・主体的に取り組むことができるような授業を実施したり、復習など繰り返し学習する機会を設定する。				
			達成感や成就感を味わえるよう、スモールステップによる指導を計画し、教材・教具や手立てを工夫した授業を実施する。				
			ポジティブ行動支援の考え方を、指導・支援に生かす。				
			交流及び共同学習において、「交流」「共同学習」それぞれのねらいや目標を交流学級担任や教科担任と共有し、連携して実施する。				
			交流及び共同学習を実施した後は、交流学級担任や教科担任とふり返りを行うことで授業改善を行う。				
	指導案		特別支援学級の学習指導案の書き方が分かり、適切に作成する。				
	評価		目標に照らした学習評価を行い、個別の指導計画の評価も踏まえて、通知表や指導要録への記入を適切に行う。				

３．【自己評価】
事前・事後アンケート結果

○専門性の向上（自己評価）について

- 事前（１回目）と事後（２回目）で項目毎に比較した結果、全ての項目において、１回目より２回目の平均値が高い。（ｔ検定：有意差あり）

※ｔ検定…２つのグループの平均値を比較する方法

事前（1回目）　＜　事後（2回目）

自己評価による専門性の向上について、
全体の傾向としては上昇傾向である。

４．【自己評価】
事前・事後アンケート結果

○事前・事後とも自己評価が高かった項目について

【実態把握】

- 児童生徒本人と、保護者の希望や教育的ニーズを把握する。

【人権教育・生徒指導】

- 児童生徒の想いや心情を大切にしながら、本人にできることは積極的に取り組ませたり、不安感に配慮したりして、児童生徒の状況に応じた関わり方をする。

※評価方法：回答者の70%以上が、事前・事後とも「だいたいできている」「できている」と評価している項目

児童生徒本人と、保護者の希望や教育的ニーズを把握する

		12月（2回目）		
		「できていない」「少しできている」	「だいたいできている」「できている」	合計
6月（1回目）	「できていない」「少しできている」	7	25	51
		21.9%	78.1%	100.0%
		5.8%	20.8%	42.5%
	「だいたいできている」「できている」	2	86	69
		2.3%	97.7%	100.0%
		1.7%	71.7%	57.5%
	合計	9	111	120
		7.5%	92.5%	100.0%

３．【自己評価】
事前・事後アンケート結果

事前・事後とも自己評価が低かった項目

【学習活動】

- 特別支援学級の学習指導案の書き方が分かり、適切に作成する。

【人権教育・生徒指導】

- 校内外へ学級通信を発行したり、交流及び共同学習において発信したりして、障がい理解とともに特別支援教育について正しい理解を促すための啓発を行う。

【進路】

- 就労について情報を集めたり、将来の就労のために今取り組むべきことを考えたりして、教育活動を実践する。

※評価方法：回答者の50%以上が、事前・事後とも「できていない」「少しできている」と評価している項目

特別支援学級の学習指導案の書き方が分かり、適切に作成する

		12月（2回目）		
		「できていない」「少しできている」	「だいたいできている」「できている」	合計
6月（1回目）	「できていない」「少しできている」	63	33	96
		65.6%	34.4%	100.0%
		52.5%	27.5%	80.0%
	「だいたいできている」「できている」	7	17	24
		29.2%	70.8%	100.0%
		5.8%	14.2%	20.0%
	合計	70	50	120
		58.3%	41.7%	100.0%

３．【自己評価】
事前・事後アンケート結果

事前・事後で評価が著しく上がった項目

【実態把握】

- 児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえて、学校における合理的配慮の提供について児童生徒本人や保護者と合意形成を図って計画する。

※評価方法：回答者の80%以上が、事前「できていない」「少しできている」のうち、事後「だいたいできている」「できている」に変化している項目

※回答者の70%以上が変化している項目　　１６／５０項目

児童生徒の実態や教育的ニーズを踏まえて、学校における合理的配慮の提供について児童生徒本人や保護者と合意形成を図って計画する

		12月（2回目）		
		「できていない」「少しできている」	「だいたいできている」「できている」	合計
6月（1回目）	「できていない」「少しできている」	10	41	51
		19.6%	80.4%	100.0%
		8.3%	34.2%	42.5%
	「だいたいできている」「できている」	4	65	69
		5.8%	94.2%	100.0%
		3.3%	54.2%	57.5%
	合計	14	106	120
		11.7%	88.3%	100.0%